

県営幾世橋地区土地改良事業計画概要書
農山村地域復興基盤総合整備事業（農地整備事業）

福 島 県

土地改良事業計画概要書 目 次

第 1 章	目的	1
第 2 章	地域の所在及び現況	1
第 3 章	基本計画	6
第 4 章	工事又は管理の要領	7
第 5 章	換地計画の要領	7
第 6 章	費用の概算	9
第 7 章	効用	10
第 8 章	他事業との関係	10
第 9 章	計画概要図	10

第1章 目 的

1 事業目的

本地区は、福島県双葉郡浪江町の中心地より南東へ約1.5kmに位置し、地区北部には二級河川請戸川、地区南部に二級河川高瀬川が流れ、2河川の間には拓けた水田地帯である。東日本大震災による津波被災と原発事故に伴う避難指示等により住民が長期間避難したことから、町内にある土地改良施設は従来のような維持管理が困難となり、施設の劣化や機能低下が進んでいる。本地区の農業生産基盤としてのほ場条件は昭和20年代からの耕地整理事業で10a区画に整備した地域であるが、区画が小区画で営農や維持管理に多大な労力を費やしている状況である。農道は大型機械のすれ違いができなく、農耕車両の進入を阻害し、用排水路についても老朽化の進行や土砂上げの水管理に多大な労力・経費を要しており、効率的・安定的な農業経営が見込めない状況である。

このため、本事業により営農再開される農地環境の整備と併せて土地改良施設の整備を行うなど、農業生産基盤の強化を図り、早期の営農再開が実現できるよう、営農意欲のある住民の帰還促進と地域農業の復興再生を図ることを目的としている。

2 地 積

(令和 7年 3月現在) (単位:ha)

市町村	地 積					計	備 考
	田	普通畑	山林	原野	その他		
浪 江 町	31.6	4.8	-	0.2	4.0	40.6	

第2章 地域の所在及び現況

1 地域の所在

事 業 名	地 域
農山村地域復興基盤総合整備事業 (農地整備事業)	福島県双葉郡浪江町大字幾世橋地内

2 地 形

市町村	標 高			地 形	地 質	備 考
	最 高	最 低	平 均			
浪 江 町	7 m	2 m	4 m	平均勾配 1/135	水積	

3 土 壤

(単位:ha)

土 壤 統 (区) 名	土 壤 番 号	面 積		土 性		備 考
		水 田	畑	表 土	下層土	
灰色土壌砂土型	F-54	31.6		SL	CL	
小野田統			4.8	LS	LS、S	畑
計		31.6	4.8			

4 気 象

(1) 一般気象

観測所名	浪江	かんがい期	4月～9月	非かんがい期	9月～4月	計		備考	
観測期間	H26年～R5年								
平均気温		21℃		9.2℃		13.5℃			
降水量	平均	646.5 m/m		781.5 m/m		1,428.0 m/m			
	基準年	441.6 m/m		630.6 m/m		1,072.2 m/m		1949年	
降水日数	平均	55日		58日		113日			
	基準年	40日		52日		92日		1949年	
根雪期間	—								
無霜期間	—								
最多風向	西		最大風速 (風向)		16.3 m/S (W)		左発生時期	2017年 4月19日	

(2) 特殊気象

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
観測期間	数量	年 月 日	発生確率	数量	年 月 日	発生確率	数量	年 月 日	発生確率	数量	年 月 日	発生確率	数量	年 月 日	発生確率
H6年～R5年															
最大日雨量	mm			mm			mm			mm			mm		
	301.0	R1.10.12	1/31	285.0	H8.9.22	1/23	265.0	H18.10.6	1/15	243.0	H21.10.8	1/10	226.0	H12.7.8	1/7
最大連続降水量	483.0	H10.8.26 ～ 9.1	1/86	371.0	H18.10.5 ～ 10.7	1/14	343.5	H20.8.19 ～ 9.2	1/9	339.5	R1.10.11 ～ 10.14	1/8	324.5	H27.9.6 ～ 9.11	1/6
最大連続旱天日数	40日	H8.5.13 ～ 6.21	1/27	30日	H24.7.9 ～ 8.7	1/9	23日	R2.4.26 ～ 5.18	1/4	22日	H13.7.20 ～ 8.10	1/3	22日	H22.8.15 ～ 9.5	1/3

5 水利の状況

本地区の用水は、国営請戸川地区の大柿ダムより取水され、請戸右岸幹線用水路から末ノ森分水工にて分水し、末ノ森用水路を経て、浪江江筋による取水となっている。地区内の現況水路は土水路で用排兼用水路のため、用水の安定供給や維持管理等に支障をきたしている。東日本大震災以降は農業用水が通水されていない状況である。

6 交 通

本地区の道路状況は、地区北西側に町道大町込堂線が走り、地区東側には町道縦11の2号線が隣接しており、生活道路並びに営農に欠くことができない道路となっている。地区内の農道については、ほとんどが砂利道で幅員も狭く通作に苦慮しているとともに、農地集積や機械施設の適正配置及び効率的利用の阻害要因となっている。

7 営農状況

市 町 村	種 目	専 業	一 種 兼 業	二 種 兼 業	計	備 考
	戸数割合					
浪江町	戸 数	153 戸	83 戸	783 戸	1,019 戸	2010年世界農業センサスより
	割 合	15 %	8 %	77 %	100 %	

8 土地利用状況

市 町 村	地 目	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	樹 園 地 (ha)	計 (ha)	備 考
	年 別					
浪江町	平成17年	1,675	464	32	2,171	2005年農業センサスより
	平成22年	1,497	435	25	1,957	2010年世界農業センサスより

9 地域環境の概況

本区域は、浪江町の中心地より南東に位置し、地区北側に二級河川請戸川、南側に二級河川高瀬川が流れる水田地帯である。また、農地は、緑豊かな田園景観を形成している。

本地域における自然環境については、ウラナミシジミ、ミゾソバが確認されている。このような生態系を保全するため、環境との調和に配慮した農業生産基盤の整備を図る必要がある。

第3章 基本計画

1 主要工事

工 種		事業量	工 事 内 容			
ほ場整備事業						
区 画 整 理	整地工	33.8 ha	水田	28.2 ha	畑	5.6 ha
	道路工	5,098 m	敷砂利	5,098 m		
	用水路工	3,862 m	装工水路	3,862 m	装工率	100.0% (うちパイプライン 3,460m)
	排水路工	5,101 m	装工水路	5,101 m	装工率	100.0%
付帯工		— m				

2 環境配慮計画

当地区周辺は環境創造区域に指定されていることから、本事業においては、事前調査に基づき、周辺の排水路に自然環境排水フリームを計画し、地域が保有する水生動植物の生態系に配慮した水路整備を行う計画とした。

3 土地利用計画

土地利用 区分	土地利用										備考
	水田 (ha)	輪換耕地 (ha)	普通畑 (ha)	樹園地 (ha)	小計 (ha)	山林原野 (ha)	道水路 (ha)	その他 (ha)	非農用地 (ha)	計 (ha)	
現況	31.6	—	4.8	—	36.4	0.2	—	4.0	—	40.6	
計画	28.2	—	5.6	—	33.8	—	—	6.8	—	40.6	

第4章 工事又は管理の要領

1 工事の着手及び完了予定時期

着工予定 令和8年度

完了予定 令和13年度

2 管理予定者

道路、排水路 : 浪江町 用水路 : 請戸川土地改良区

第5章 換地計画の要領

1 換地計画樹立の必要性

本地区は、浪江町の中心地より南東に位置し、地区北側には二級河川請戸川、南側に二級河川高瀬川が流れており、北西側には町道大町込堂線が走る農地である。この地域の水田の区画は小区画で狭小な農道・用排水路等の農業施設も旧態依然の整備水準であり維持管理に多大な労力を費やしているばかりでなく、農業機械の大型化や農地集積の阻害要因となっている。

このような地域の現状を踏まえ、農山村地域復興基盤総合整備事業によって、区画の大型化、農道、用排水路の整備を行い生産基盤を改善することにより、担い手へ農地利用集積を図る。

したがって換地計画を作成するにあたっては、事業の目的達成と集落営農の推進のため、農地の流動化と集団化を促進するなど、農業構造改善に資する換地計画の作成を基本方針とする。

2 換地計画の基本方針

(1) 従前地の地積の基準

換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、決定の日から3ヶ月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申し出のあった場合は、その申し出のあった地積とする。

従前の土地の地目は、土地改良事業計画決定の日の登記地目とし、用途については土地評価により決定する。

(2) 農用地集団化の方法

区分 換地区名	地帯別、グループ別 団地の設定	個人別換地の方法		
		位置の選定方法	一戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
全工区	地目別集団化 農用地利用集積促進 区域別集団化	換地は、受委託・利用権設定等促進を考慮し、育成すべき経営体の所有農用地が利用集積の核となるようにできるだけ集団化するものとする。 換地は、各人の従前の土地が密集した位置を中心に定める。ただし、各農家の集団化及び育成すべき経営体の利用集積に係る集団化を図ることにより、従前の土地の位置がかなり動く場合には、概ね同じ条件の土地を選定して集団化する。	各農家の農用地は、できるだけ大規模に集団化するものとし、1戸当たりの団地数は特殊地を除き、概ね田については1～3団地、畑については1～2団地を目標とする。	水田は、固定畦畔とする。

(3) 非農用地換地の方法 該当なし省略

(4) 評価の方法

標準地比準方式により評価委員が評価する。

・評価は、評価委員が土地評価項目の案を作成し、受益者による会議で承認された土地評価表により行う。

(5) 清算の方法

増価額比例地積清算方式とする。

・清算は、従前地の総価額と換地の総価額との差額（増価額）を従前の地積に比例して交付し、従前の土地の価額と増価額を合計し、換地交付基準額を定め、換地の価額との差額を徴収または交付し清算する。

(6) 換地処分の特則

本地区については、地区の全部について区画変更工事が完了し、確定測量が行われたときは土地改良法第89条の2第10項により準用する同法第54条第2項の本文の規定ただし書きに基づき換地処分を行うことができる。

3 土地改良法第5条6項に規定する国有地等編入承認に係る地積

(単位：ha)

工 区	用 途 前 後	道 路 水 路 等 に 供 ず る 土 地						計	備 考
		法第54条の2第6～7			法第53条の2				
		国	県	市町村	土地改良区		法第53条 私有地		
					ため池	道水路			
全 工 区	従 前	-	0.2	3.8	-	-	-	4.0	
	換 地	-	-	6.8	-	-	-	6.8	

第6章 費用の概算

1 事業費の総額と内訳

総 額 1,214 百万円 ※地方事務費除く

種 目	全 体		農山村地域復興基盤総合整備事業		農業経営高度化支援事業		備 考	
	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費		
工 事 費	33.8 ha	937 百万円	33.8 ha	937 百万円				
内 容	区画整理工	33.8 ha	937	33.8 ha	937			水田：28.2 ha 畑：5.6 ha
	暗渠排水工	ha		ha				
	客土工	ha		ha				
	附帯工	式		式				
測量試験費	1 式	110	1 式	110			測定、補償費、文化財調査費	
営繕費	式		式					
用地補償費	1 式	14	1 式	14				
換地費	40.6 ha	59	40.6 ha	59				
工事雑費	式		式					
小 計		1,120		1,120				
農業経営高度化支援	1 式	94			1 式	94 百万円		
内 容	指導事業	33.8 ha	3		33.8 ha	3		
	調査・調整事業	33.8 ha	9		33.8 ha	9		
	高度経営体 面的集積促進事業	33.1 ha	82		33.1 ha	82		
小 計		1,214		1,120		94		
地方事務費	式		式					
合 計		1,214		1,120		94		
助 成 対 象		1,214		1,120		94	営繕費・工事雑費・地方事務費を除く	

2 事業費の負担割合及び金額

負担区分 地区名	国		県		市町村		地元(受益者)		計 (千円)	備 考
	割合 (%)	金額 (千円)	割合 (%)	金額 (千円)	割合 (%)	金額 (千円)	割合 (%)	金額 (千円)		
幾世橋	77.50	868,000	13.75	154,000	8.75	98,000	-	-	1,120,000	

第7章 効 用

事業区分 項 目		全 体		農山村地域復興基盤総合整備事業				備 考
		年総効果額 (便益)	年総増加 農業所得額	年総効果額 (便益)	年総増加 農業所得額	年総効果額 (便益)	年総増加 農業所得額	
食料の安定供給の 確保に関する効果	作物生産効果	千円 32,972	千円 29,784	千円 32,972	千円 29,784	千円	千円	
	営農経費 節減効果	55,160	61,360	55,160	61,360			
	維持管理費 節減効果	△ 509	8,193	△ 509	8,193			
農業の持続的発展 に関する効果	耕作放棄防止 効果	0	-	-	-			
農村の振興に関する 効果	非農用地等 創設効果	-	-	-	-			
その他効果	国産農産物安 定供給効果	6,207	-	6,207	-			
計		93,830	99,337	93,830	99,337			
総費用 (現在価値化)		1,393,187 千円		1,393,187 千円				
総便益額 (現在価値化)		1,704,677 千円		1,704,677 千円				
総費用総便益比		1.22		1.22				≧1.0
総所得償還率(%)		-		-				≧20%
増加所得償還率(%)		-		-				≧40%

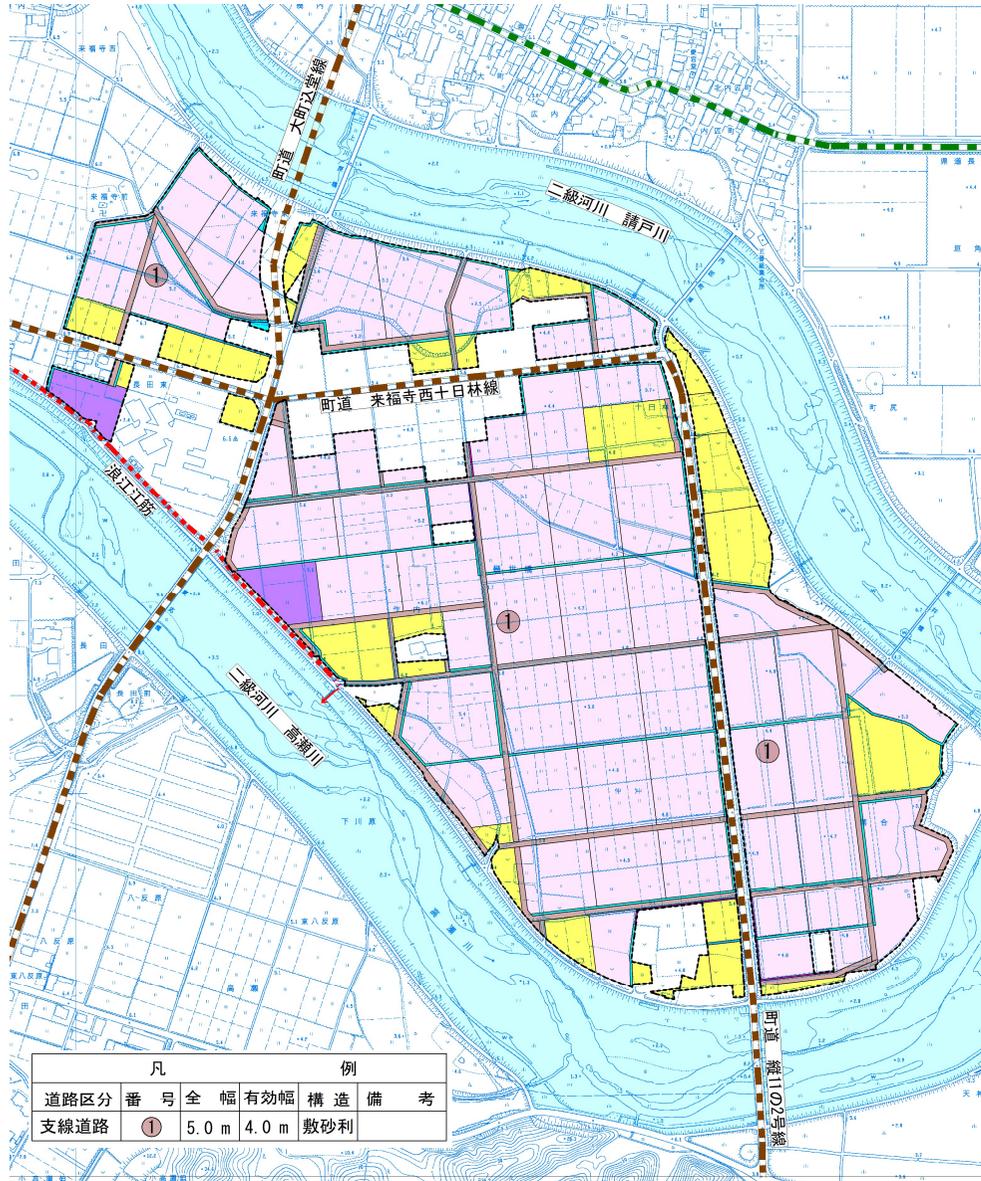
第8章 他事業との関係

該当なし省略

第9章 計画概要図

別添の通り

計画一般図



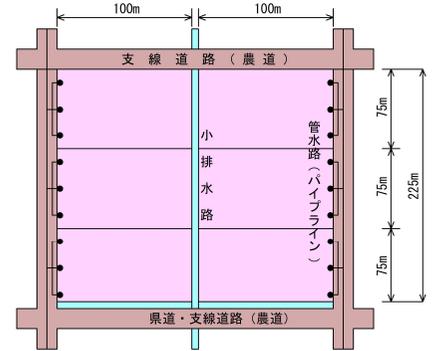
凡	例				
道路区分	番号	全幅	有効幅	構造	備考
支線道路	①	5.0 m	4.0 m	敷砂利	

凡	例
-----	地区界
▲	田 28.2 ha
▲	畑 5.6 ha
▲	調整池 2箇所
□	国道
□	県道
□	町道
—	河川
—	支線道路(砂利)
—	支線道路(A S)
—	小用水路
—	小排水路
—	既設用水路

位置図

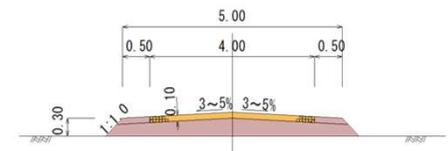


標準区画割図

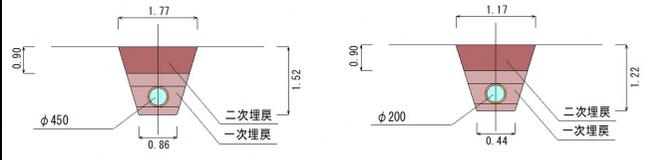


標準構造図

標準断面図 (支線道路)



標準断面図 (パイプライン) 標準断面図 (パイプライン)



標準断面図 (小用水路) 標準断面図 (小排水路)

